

「健全なる精神に向けての私たちの使命 (Mission Mental Health) プロジェクト」について

1 はじめに

精神疾患は私たちには馴染みが薄い疾患です。精神疾患にはうつ病、不安障害などの他、認知症も含まれますが、一生の間に精神疾患になる確率は「ふたりに一人」とされていますので、相当高い確率です。これは一生の間に癌にかかる確率と同じです。身近にそう多いように感じないのは、日本では精神障害者を入院させるからです。日本の場合、入院患者の20%は精神疾患患者です。政府は先日現在の病床数135万床を今後10年で20万床削減することを決定しました。これは今後は約4万人の精神疾患患者を社会で温かく見守っていかねばならないことを意味しています。

世界では日本のように入院させません。そのため精神疾患患者は一般社会の中で生活していますが、これらの精神疾患患者は差別や隔離、虐待の対象になります。世界各地で迷信による集団暴行、鎖で繋がれる、檻に入れられるなどの虐待が発生していることは容易に想像がつきます。このようにメンタル・ヘルスの問題は実は精神疾患の人々の治療やケアの問題だけではなく、私たち人類全体に突きつけられた高度な精神性の問題でもあるのです。「健全なる精神に向けての私たちの使命」とはそのような意味を含んでいます。

2 実施地域及び実施期間

国際ロータリー3000地区（設立1990年・88クラブ・4117名）は南インドのタミルナドゥ州（中心都市マドゥライ）にあります。この地区の人口は約1300万人ですが、精神福祉施設が身近にない農村部の人口は約800万人、その内約8万人(1%)が重度な精神疾患患者であり、軽度を含めると人口の約3%の患者がいると思われます。これは日本でもほぼ同じ比率です。また患者をケアしている家族も恩恵を受けることができます。これらの人々が対象になります。初年度の実施期間は2015年11月1日～2016年12月1日です。

3 実施内容

国際ロータリー3000地区にプロジェクト管理センター（1ヶ所）、精神衛生相談センター（3ヶ所）、精神衛生推進員（8名）を配置します。精神衛生推進員は住民から選出して、訓練を行います。その維持管理費用及び訓練費用が事業内容となります。これらの施設ではロータリアンの協力のもと、患者の早期発見や相談、治療を行うほか、無線装置の付いた専用バスによる巡回診察（予算は別機関による）も行います。さらに社会全体に向けての精神障害者への偏見を取り除く社会運動 (Anti-Stigma) 運動を展開します。これらの運動は今後の日本社会での取り組みの参考になります。

4 事業に係る予算

	実施項目（初年度）	内 容	USD
1	プロジェクト管理センター	専門員謝礼、事務局賃借、事務経費など	12,444
2	精神衛生相談センター	専門員謝礼、事務局賃借、事務経費など	33,095
3	精神衛生推進員謝礼および交通費	推進員謝礼、交通費など	13,714
4	メンタルヘルス意識の向上プログラム	毎月1回8地区で開催	21,333
5	精神衛生推進員の訓練	トレーナー謝礼、宿泊、食事など（3日）	740
7	専門員能力強化セミナー	講師謝礼、宿泊、食事など（3日）	1,216
	合 計		82,542

予算総額（82,542USD）の内、実施国（インド側）のDDFは12,542USD、支援国（日本側）のDDFは30,000USDとなります。